

北九州市農業委員会

第19回西部部会会議（令和6年度2月部会会議）議事録 2/2

部会長

要するに、その方向性は農林課がちゃんと処理して、それを農業委員会に働きかけていくのだったらいいけど、それはどの地区もやっているけど、北九州市はちょっと遅れている。

それと、北九州市の開発計画、若松北海岸、曾根地区とか何か所かありますが、その中に農地が入ってくるけど、その計画策定に関しても、農政が、それができた時にどういう形で開発を進めたらいいかっていうことがわかりやすいし、開発側も、農地の区分の変更をしてくれとかね。いろいろ調整ができると思うけど、お互いの話し合いを進めて、スピード感をもって対応しないといけないと思うので。私の意見ですけどね。

そういう形で、農業委員会としては進めていきたいと思っておりますので、いいですかね。

部会長

それでは、ただいまの市の説明につきまして、何かご意見がございますか。

部会長

ただ、今回は一部の農地だけですが、これ以外にも農地が結構ありますので。これ以上農地が減ったら困るということを、皆さん、お考えがあると思いますので、そういう中で、お互いに農業を継続するためには、特に食料の自給率を上げるとか、そういう意識の中で、進めていけたらいいかと思っておりますので。私の意見が正しいか、正しくないかわかりませんが、そういう形で、今後進めていきたいと思っております。

とにかく年内に北九州市の地域計画、5年後、10年後の、現状が今後どうなるという中で、地図上にのせて、進めていきたいと思っておりますので、いいですかね。

太田委員

自分らの地域のことはよくわかっているつもりだけど、何か決まった書式があるのですか。

例えば、私は蚕住ですけど、蚕住の中でもいろんな問題があるんですけど、谷の方をつぶしていこうとか、いろいろ計画あるわけです。

そういう場合、何か集約されていくときに、こういうふうに言う意見を言えばいいんですか、それとも何か書くものがあるのですか。

部会長

蚕住地区は、全体が農用地になっているよね、特に蚕住地区はもう高齢化でね。あともう5年もすれば辞める人が多いよね。5年後には全部白地になるかもわからん、そういう可能性があったらどういう対応をとったらいいか、農業委員会で対応しないといけないかもしれないということ。

今は小竹地区だけの話だが、他の地区も、はっきりした形の中の地域計画づくり、今後農業がどうなるかを、北九州市としても真剣に物を考えてもらわなきゃいけないし、その現状は委員の人にもわかってもらわなきゃいけないと思うんでね。

これは北九州市だけの問題じゃなくて全国的な問題だと思うけど。だから、なるべく早いうちに、地域計画を作成して、5年後、10年後作り手がいなくなるのだったら、新しい担い手を探すとか、やり方を変えるとか。農業者が農業できないのだったら、一般の人に公募して入ってもらうとかね。何か新しい形をとらんことには大変なことになる。現状は、皆さんある程度わかってあると思うけど、何年後には誰が辞めるというのは想像がつく。

こういう形の中で、最悪の事態にならないように、地区を守る農業委員・推進委員の皆様方に、それなりのしっかりした意見を持ちながら、お互いに協力しながら、できることは進めていきたいと思っています。

西部農政事務所農産係長

私への質問だったと思いますので、私の方から少し回答させていただきますと、蟹住地区におきましては、先ほど冒頭でも言いましたように、人・農地プランということで、ある程度集約できているのかなというふうに思っています。

ただ、この人・農地プランというのは、あくまで将来に向けた予想というかですね未来予想図を書いたようなもので、皆さんの意見が完全に集約できているのか、また時代が変わっていったらですね、いろんな周りの要件も変わってきていますので、どのように変わっていくかということについて、改めてお話し合いができればいいのかなと思っています。

必要があれば、農政事務所の方にお声掛けいただきましたら、先ほど説明したのと同じように、協議の場というのを、例えば蟹住の範囲、或いはもうちょっと広げた範囲、狭い範囲でも構いませんので、そこで協議の場を作って、地域の皆さん、農業者の皆さん、それから、農業者以外の方も含めてですね、地域のエリアについて考えて、計画を作っていくってことをやっていきたいな、というふうに思っております。

ただその辺の最初のステップはですね、先ほど増谷係長の方からもありましたように、村づくり活動というものじゃないかなと。まずそこからですね、声掛けいただければと思っています。

部会長

農政の方の言わんとするところはわかるけど、問題は、今、耕作者が、地元の人ができないから、今いろんな地区の人が入り込んで、農業をされよるんよね。

これを考えたときに、今現在作っている耕作者がみんな集まって、その中で今後どういう形に持っていかとかね。そういう形で話し合いを進めていけば、いい方向に進むんじゃないか。

例えば、小敷では耕作者は1人か2人だが地権者は十何人もいる、そういう中で、十何人の話はまとまらない。それよりも耕作者の中で話をまとめていくとかね。最終的には耕作者が農地を守らないと、守る人がいない。市ももう少し考えてもらって、蟹住も決まってから10年目ぐらいに入りますので、もう一歩踏み込んだ形の中でね。

耕作者を各地区で呼んだときに、各地区の農業委員・推進委員の皆さんは、各地の耕作者をある程度把握していると思う。

その時に聞き取りをしたら図面にできるよ。私は1時間でできた。

各地区の人は、どの田んぼを誰が作っているかは大体わかっていると思うんだが、そういう中で早い段階で図面づくり。なぜかという、委員の任期が3年。次期後継者に引き継ぐためには、こういう図面があったら簡単に引き継げるだろうと思うんだけど、絶対に自分はしようと思うんだが、市も本当に積極的に考えるのだったら、農林課が作って、農地プランのアンケート調査をこういう形、プライバシーとか個人情報とかいろいろな関係があるから、名前や住所は書けないだろうけど、年は書けるだろうから、5年後、10年後も続けられるかどうか、後継者がいる、いないだとかね。

そういう調査を並行して進めていった方が、ちゃんとした立派な図面ができるのではないかなと思うんですよね。

ちょっと市の取り組みが遅かったけど、国の指針に従わないと、今後、補助対象にならんとかね。スマート農業とか圃場整備する場合でも、地域計画地域でないとか、国がそういう方向性を示すと思うんでね。

農家にとっては特に集約化して、大規模化するということに対して、せっかく補助が始まるのに、補助が出ないとか、そういう大きな問題が出ると思うので、これからも協力しながらやっていきたいと思っています。

部会長

他に意見はございますか。

岩男委員

私、楠橋の農振地域で耕作しており、その中でも、唐熊地区で先ほど言われた人・農地プランを続けておりまして、農地の集積も数年前には終わりました、だから農地自体はある耕作者に集約できていまして、先ほど言われたように、会長からもお話があったように、この後耕作者が、5年後、10年後耕作していけるのかという、そういったことを進めるということによろしいでしょうか。

耕作者に、直接話をする、アンケートを取る、そういう動きで情報を得るということによろしいでしょうか。

西部農政事務所農産係長

先程、会長が言われたのは、我々農政事務所も含めて協力しながらですね、農業委員会としてアンケートを取るのだというふうに理解しております。

部会長

皆さん、議案第1号の地域計画の作成状況と課題というのはこれ一部の地域のことなので、全体的にこれから農業を本当に調べるということになったらね、各地区の状況を全部出してもらわんと、確実な状況はわからんよ。

本当に将来的な農業を考えたら、5年後、10年後はどうなるかという話の中で、農業委員や推進委員が動いてもらって、何年も前から情報があれば、この農地が減るから誰かに作ってもらわないといけない、と動ける。急に辞めてすぐに対応しないといけないでは話にならない。

今後、範囲を広げて、地域計画の作成をやっていったらいいんじゃないかと思っています。農政と協力して、各地域別に図面に5年後、10年後の色分けをしてもらって、その中で話を進めていったら、スムーズに進むんじゃないかと思っています。

ただ、感じたことは、もう自分ももう3期目に入るけど、改選時にどの地区がどうな

っているかわからんよね。

そのときに地図があったら、この地区はどうなっているか想像がつく。それから、新規就農するときに農地が見つからないという問題があったけど、何年後には白地になるから規模拡大できる、ここで作ったらどうか、と話がしやすいので、計画ができたらいいと思っております。

本当は、農林課が早いうちに動いて、たたき台を出してもらえたら。農業委員会が作成するのではなくて、農林課の方からそれなりの素案を出してね、そこで方向性を決めていってくれた方がいいと思うけどね。

岩男委員

参考資料をある程度示してもらって、それでどうしたらいいかということで、農業委員・推進委員は取り組んでいくことだと思んです。

誰が作っているかわからない地域がまだいっぱいあるわけなんですよ。

だから、そこら辺の資料がないと動きようがない。

そういった資料は、農林課の方で出すとかいうことは可能なのでしょうか。

事務局次長

これについては、会長の方から、今言われたようなことを実は少し前に伺ってありました。

また地図を作るにあたって、紙でやるのかデータでやるのかとか、どういった情報がどこまで出せるのかとか、そういうところを内部で詰めているところでした。

今後、我々と市の方で、スピード感を持って調整を進めて参りますので、実際のやり方については、もうしばらくお時間をいただければと思います。

順次協議を進めて参りますので、我々もスピード感を持ってやって参りますので、ご協力よろしくお願いいたします。

部会長

それでは、部会においてこのような意見があったということで、北九州市に回答しますね。

これで一般議案の審議を終わります。

部会長

次に、その他の連絡事項に移ります。

事務局から連絡事項について説明をお願いします。

(事務局からの事務連絡)

部会長

皆様方から何かありませんか。

(意見なし)

部会長

それではこれで、第19回西部部会会議を終了いたします。

お忙しい中、ご出席ありがとうございました。

